

奈良支部が設立

地域の建設会社などで構成する「三方良しの公共事業推進研究会」の奈良支部が10日に設立した。研究会理事で設立発起人を務める中村光良中村建設社長の呼びかけに地元の建設会社や市民など15者が賛同した。建設現場を通じた住民、発注者、施工者の三方良しを活動理念に掲げる研究会では地域組織の立ち上げが動き出し、奈良支部の誕生は新潟に続く2例目となる。設立総会には研究会理事メンバーや同社協力会社など100人を超える参加者が集まった。

冒頭、あいさつした中村社長は「三方良しの考え方に賛同して頂いた地元の建設会社らとともに地道に活動しながら、世間から持たれている建設業の悪いイメージを払拭したい。三方良しの活動は元請けだけでは実現できない。ともに現場で働く協力会社とも同じ意識で取り組む。建設業の良さを世間に知ってもらうため、地域から発信していく」と設立への思いを口にした。



あいさつする
中村社長

中村建設の呼びかけに15者賛同



設立式典の参加者は100人を
超えた

総会では、同社の技術本部建築担当で入社4年目の薩川涼さんが「僕のめざすもの」と題し、自らの目から見た三方良しについての事例を発表したほか、研究会メンバーから小野組の小野貴史社長と土木事業部の久世秋絵さんが「三方良しと人材育成—3年目の壁をぶち破る」、礒部組の宮内保人技術部長が「ゆうこさんを探せ」をテーマにそれぞれ講演した。

来賓として出席した西川淳奈良県県土マネジメント部主幹は「安心・安全の国土づくりには建設業の役割が欠かせない。三方良しの活動を通じ、スピーディーな現場運営を実現してほしい。奈良支部のこれからの活動にも期待している」と支部設立にエールを送った。

また、研究会では、地域建設業が取り組む三方良しの現場事例を紹介する「三方良しの公共事業推進カンファレンス」を、6月19日に福岡市の福岡県中小企業振興センターで開催する。入場は無料。

